

(注) 本月報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

## ベナン月報(2018年10月)

### 主な出来事

#### 【内政】

- 18日、経済犯罪・テロ取締裁判所(CRIET)は、アジャボン経団連会長が経営する会社宛のコンテナからコカイン18kgが発見された事件(2016年10月)に関与した疑いで同氏を起訴していたが、今般本人不在のまま裁判が行われ、懲役20年、罰金500万 CFA フランの判決を下し同氏を国際指名手配とした。同氏の弁護士はこの判決は不当であるとしている。

#### 【外政】

- 6-7日、アベノンシ外務・協力大臣は、東京で開催された TICAD 閣僚会合に出席した。また、河野外務大臣と会談を行い良好な2国間関係について意見交換を行った。

#### 【経済】

- 13日、アイス産業・商業大臣は、日本による食糧援助のコメの販売を開始する旨メディアで発表した。供与米約3,900トンは30kg袋7,800CFAフランで販売される。販売金は社会・経済発展のために活用される。コメの販売期間は10月15日~12月28日までである。コトヌではセントラルコープで販売され、その他自治体では、市長をトップとした流通委員会のもとで販売される。
- 30日、ダッサズメにおいて、日本の支援により実現した飲料水管理施設の引渡式が行われた。小西大使及びアダンビ水利・鉱山大臣らが出席した。当該計画は総額57.12億 CFAフラン規模であり、53.55億 CFAフランが日本の支援で賄われた。当該計画により、給水量はこれまでの一日あたり352m<sup>3</sup>から1,352m<sup>3</sup>に増加する。

#### 【文化・その他】

- 23日、フランス学院(Institut Français)において、東北地方をテーマにした写真展のヴェルニサージュが開催された。同式典には産業・商業大臣、エネルギー大臣、保健大臣、社会問題・マイクロファイナンス大臣の4大臣が参加した。同式典の中で、小西大臣は良好な日ベナン二国間関係について述べ、2025年万博の大阪開催への支持を要請した。産業・商業大臣はタロン大統領が日本を支持している旨述べた。同写真展は11月2日まで展示され、同19日からは駐ベナン日本国大使館に移動する。

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'économiste 紙、La Nouvelle Tribune 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

## 【内政】

- ・ 1日, 商事裁判所の新庁舎引渡式が行われ, クナム法務大臣らが出席した。(当館注:同裁判所はこれまでコトヌ第一審裁判所内にその機能を有していた。)同大臣は, 投資家と受益者間の商事関連での良好な関係を築く上で, また, ベナンの経済発展において同裁判所の設立は重要であると述べた。(2日, Le Matinal 紙)
- ・ 10日, 閣議において, 国勢調査(RAVIP)後, 出生証明書を有していないベナン国民約250万人に対して同証明書の発行を決定した。(11日, Le Matinal 紙)
- ・ 18日, 経済犯罪・テロ取締裁判所(CRIET)は, アジャボン経団連会長が経営する会社宛のコンテナからコカイン18kg が発見された事件(2016年10月)に関与した疑いで同氏を起訴していたが, 今般本人不在のまま裁判が行われ, 懲役20年, 罰金500万 CFA フランの判決を下し同氏を国際指名手配とした。同氏の弁護士はこの判決は不当であると述べている。(19日, La Nation 紙)

## 【外政】

- ・ 1日, ウス・エネルギー大臣は, インドで開催される国際太陽光連盟(ISA)総会に参加した。トーゴ, コートジボワールのエネルギー大臣と意見交換を行い, 仏, トーゴ, マリの各大臣と共に会議に出席した。(5日, Le Matinal 紙)
- ・ 3日, 閣議において, ベナン・ガボン間での児童売買防止強化に向けた協定締結のため, リーブルビルへ外交団を派遣することを決定した。(5日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 6-7日, アベノンシ外務・協力大臣は, 東京で開催された TICAD 閣僚会合に出席した。また, 河野外務大臣と会談を行い良好な2国間関係について意見交換を行った。(12日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 10日, タロン大統領は, ファキ(M. Moussa Faki Mahamat)AU 委員長と会談した。アフリカ大陸内での自由貿易, 空路事業の単一化, 人やモノの域内移動の自由化等について意見交換がなされた。(25日, L'Économiste 紙)
- ・ 12日, タロン大統領は, アルメニアのエレバンで開催された第17回仏語圏首脳会議の margins でトルドー(M. Justin TRUDEAU)首相と会談した。両国が参加している「国連マリ多元統合安定化ミッション(MI NUSMA)」や2国間関係について意見交換を行った。(15日, L'Économiste 紙)
- ・ 23日, タロン大統領とナイジェリアのブハリ大統領は, 両国国境の SEME-KRAKE ワンストップ・ボーダーポスト(OSBP)の引渡式に参加した。ブル(M. Jean Claude BROU) CEDEAO 委員長等が出席した。2014年10月から始まった同OSBP建築計画は EU より130億 CFA フランの支援を得て実現に至った。同ポストは17ha の敷地で商用車用, 税関, 歩行者用と3つのゾーンに分けられている。(24日, L'Événement Précis 紙)
- ・ 29日, ベルリンで開催されている G20アフリカ・パートナー会合に出席したタロン大統領は, シュタインマイヤー独大統領と会談を行った。(30日, La Nation 紙)

## 【治安】

- ・ 9月28日～30日にかけて、アタコラ県クアンデ(Kouandé)市ウルカヨ地区において、食中毒により9人家族の内、子供1人を除く両親及び子供6名の計8名が死亡した。トウモロコシのパット及びソースが原因とみられている。(2日, Le Matinal 紙)
- ・ 3日早朝、ポルト・ノボのトポタ・ダボ(Tokpota-Davo)地区において、ベナン国軍下士官の警官の死体が発見された。複数犯により銃撃されバイクが盗まれたが、被害者が所持していた100万 CFA フランは残されたままであった。共和国警察ウエメ県長官によると、犯人はバイク盗難を目的として襲撃したと考えられると述べた。(4日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 4日午後3時頃、ボイコン氏において、銀行で現金240万 CFA フランを引き下ろした市民がレストランで食事中、銃を所持した複数の男に現金を強奪された。怪我は無かった。(5日, L' Autre Quotidien 紙)
- ・ 9日午前2時頃、パラク市3番地区において、パトロール中の警察官が不審なオートバイに乗車した2人組を尋問しようとしたところ、同2人組はオートバイを放置して逃走した。警察官が追跡したところ、犯人1人にナイフで首を刺され警察官は死亡した。(11日, Le Matinal 紙)
- ・ 10日、コトヌ市のホテルにおいて、象牙59本183Kg を密輸した疑いで密売人3名が逮捕された。(12日, Le Matinal 紙)
- ・ 11日、マランヴィル市において、中心部に住む夫婦宅の井戸から生後1か月の乳児が死体で発見された。母親が乳児を沐浴させていて少しの間目を離した隙に子供が失踪していた模様。(12日, Le Matin Libre 紙)
- ・ 15日早朝、コリーヌ県ウエセ市チャラ・オゴイ(Challa Ogoi)地区で強盗がニジェール籍のバスを襲撃した。32歳のバス運転手が死亡、乗客約40名の内3名が負傷した。目撃者によると犯人は5名で、2名は密造銃を所持していた模様。警察は現在捜索中である。(16日, Le Matinal 紙)
- ・ 15日、ウエヨベ(Houéyogbé)市のコメ-ロコサ-ドボ間の幹線道路で、バイクが前方を走る自動車に激しく追突し、バイク運転手が死亡し、バイクは炎上した。(16日, La Nation 紙)
- ・ 15日の週、ベナン人2名がマダガスカル入国の際にヘロイン密輸の疑いで逮捕された。犯人達は鞆の裏地にヘロイン21.93キロ、総額5.18億 CFA フラン相当を隠し持って入国を試みた。(22日, L' économiste 紙)

## 【経済】

- ・ 1日、タロン大統領は、カザフスタン籍のオルダバジー(Ordabasy)グループの幹部と会談し、農業、鉱業及びエネルギー分野での投資について意見交換を行った。(3日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ 2日、自治市場管理公社は、ダントツパ市場(当館注:コトヌ市にあるベナン最大規模の市場)の税制改定を発表した。屋外での販売者は月1,200CFA フランから2,000CFA フランに、肉屋は3,000CFA フランから4,500CFA フランになど業種によって増額される。

- (5日, L' économiste 紙)
- ・ 3日, アイナ生活環境・持続的開発省環境・気候部長は, コトヌ市において2017年12月に成立したビニール袋の生産・輸入・販売・配布・使用の禁止に係る法律の施行に伴い, 180トンの生分解性ビニール袋180トンの引渡式を実施した。デンプンを原料とするこの素材は, 人の健康や環境に対し無害であり, 西アフリカ初の流通となる旨発表した。(4日, La Nation 紙)
  - ・ 3日, 世界銀行は「アフリカの鼓動」2018年度版において, 2018年のベナンの経済成長率は6%, サブサハラアフリカの平均は2.7%であると発表した。(5日, L' Evénement Précis 紙)
  - ・ 4日, 大統領府において, 「2030年飢餓ゼロ」計画の報告書がタロン大統領に引渡された。同報告書によると, 2017年ベナン全土の約10%の家庭は食糧安全が保障されていない状況, 40%が食糧安全保障にリスクがあるとのことである。(5日, La Nation 紙)
  - ・ 5日, ドスウイ農業・畜産・漁業大臣及びアイス産業・商業大臣は記者会見を開き, 2018年度のトウモロコシ生産量は160万トンであり, 前年の120万トンを大きく上回ったと発表し, 余剰分については輸出を促進していく旨述べた。(8日, L' économiste 紙)
  - ・ 9日, 小西大使は保健省において, タンゲタ市サン・ジャン病院への救急車2台を供与するプロジェクトの署名式を行った。ウンパティン保健大臣が参加した。供与金額は約4,000万 CFA フランである。(10日, L' Evénement Précis 紙)
  - ・ 13日, アイス産業・商業大臣は, 日本による食糧援助のコメの販売を開始する旨メディアで発表した。供与米約3,900トンは30kg 袋7,800CFA フランで販売される。販売金は社会・経済発展のために活用される。コメの販売期間は10月15日~12月28日までである。コトヌではセントラルコープで販売され, その他自治体では, 市長をトップとした流通委員会のもとで販売される。(17日, La Nation 紙)
  - ・ 16日, 日本の国際組織である Hunger Free World-Benin は, 世界食糧デーにあわせ, 「2030年の飢餓ゼロにむけたジャーナリスト」と題して研修を行った。約30名のジャーナリストが参加した。(19日, L' Evénement Précis 紙)
  - ・ 17日, 世界経済フォーラム(WEF)は, 2018年版国際競争力レポートを出版した。同報告書によると, ベナンは世界140か国中123位, アフリカ内24位, UEMOA 域内で3位であった。(17日, L' économiste 紙)
  - ・ 17日, 小西大使はジジャ市ダン中学校において, 同中学校の増築計画に関する署名式に参加した。供与金額は約1億 CFA フランに上る。当該計画は草の根・人間の安全保障無償の枠組みで支援される。(19日, Le Matinal 紙)
  - ・ 10月に発表された「世界パスポートランキング(Henley Passport Index)」によると, ベナンの旅券では61か国をビザなしで訪問可能であるとし, アフリカで18位, UEMOA 域内で最上位にあることが分かった。世界190か国中の1位は日本であった。(22日, L' économiste 紙)

- ・ 22日、アトランティック県ゴロ・ジベ第2中学校において、日本の支援で建設された2棟8教室及びトイレ棟1棟4基の引渡式が行われた。供与額は9,200万CFAフランであった。日本はこれからアトランティック県の34の学校に200教室の建築計画を予定している。(23日, Le Matinal 紙)
- ・ 30日、ダッサズメにおいて、日本の支援により実現した飲料水管理施設の引渡式が行われた。小西大使及びアダンビ水利・鉱山大臣らが出席した。当該計画は総額57.12億CFAフラン規模であり、53.55億CFAフランが日本の支援で賄われた。当該計画により、給水量はこれまでの一日あたり352m<sup>3</sup>から1352m<sup>3</sup>に増加する。(31日, La Nation 紙)

#### 【文化・その他】

- ・ 9月29日、パラクにおいて、ベナン国営宝くじ公社(Loterie)は競馬場新設工事の起工式を行った。スポーツ、経済、都市計画及び環境面での波及効果が期待される。(4日, L' économiste 紙)
- ・ 11日、ネット(M. Olivier NETTE)駐ベナン EU 大使公邸において、絵画・彫刻展のヴェルニサージュが開催された。(12日, La Nation 紙)
- ・ 23日、フランス学院(Institut Français)において、東北地方をテーマにした写真展のヴェルニサージュが開催された。同式典にはアイス産業・商業大臣、ウス・エネルギー大臣、ウンパティン保健大臣、タロ社会問題・マイクロファイナンス大臣の4大臣が参加した。同式典の中で、小西大臣は良好な日ベナン二国間関係について述べ、2025年万博の大阪開催への支持を要請した。産業・商業大臣はタロン大統領が日本を支持している旨述べた。同写真展は11月2日まで展示され、同19日からは駐ベナン日本国大使館に移動する。(24日, L' Evénement Précis 紙)
- ・ 27-28日、アビジャンで開催されたアビジャン国際柔道トーナメントにおいて、ベナン代表は銀メダル2つを含む8つのメダルを獲得した。なお同大会は西アフリカ7か国が参加して行われた。(29日, La Nation 紙)
- ・ 27日、第四回エコ・ランニングがコトヌで開催され、企業人、生活環境・持続的発展省及び小学校約10校の児童らが参加し、プラスチックゴミ約1.6トンが回収された。(30日, La Nation 紙)